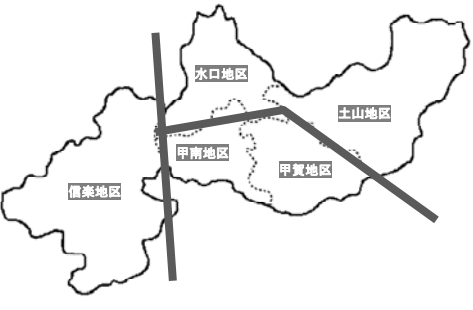
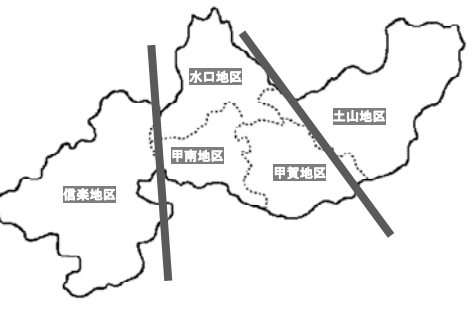




# ■甲賀市が定める教育・保育提供区域案

区域	0~5 歳児人口 (平成 21 年 4 月末)	0~5 歳児人口 (平成 25 年 4 月末)	0~5 歳児人口 (平成 32 年 4 月末推計)	H25~H32	幼稚園		保育所		認定 こども園		計
					市立	私立	市立	私立	市立	私立	
水口地区	2,626	2,386	2,309	▼77	1	1	4	2	-	1	9
土山地区	338	290	236	▼54	1	-	3	-	-	-	4
甲賀地区	520	453	375	▼78	2	-	4	-	-	-	6
甲南地区	1,132	1,160	1,084	▼76	0	1	5	2	-	-	8
信楽地区	475	436	338	▼98	1	-	3	1	-	-	5
計	5,091	4,725	4,342	▼383	5	2	19	5	-	1	32

注:0~5 歳児の将来人口推計は、コーホート変化率法(平成 21 年、平成 25 年 4 月末住民基本台帳)による推計

提供区域①案 (3 区域)	提供区域②案 (3 区域)	提供区域③案 (5 区域)	提供区域④案 (6 区域)
「水口・土山区域」 「甲南・甲賀区域」「信楽区域」	「水口・甲南・甲賀区域」 「信楽区域」「土山区域」	「水口区域」「甲南区域」「甲賀区域」 「信楽区域」「土山区域」	「水口 1 区域」「水口 2 区域」「甲南区域」 「甲賀区域」「信楽区域」「土山区域」
			
設定理由及び分析内容	設定理由及び分析内容	設定理由及び分析内容	設定理由及び分析内容
今後も安定した教育・保育事業を展開するためには、ある程度集約された人口（児童）単位を設定する必要があることから、日常生活圏及び施設配置状況を考慮した圏域である。一方で、利用者が少ない地域（信楽）ができることから、量の見込みの設定が難しくなることが考えられる。	教育・保育施設の利用者が多く、大幅な定員増加を見込む地域（水口・甲南）が設定できる。一方で利用者が少ない地域（信楽・土山）ができることから、量の見込みの設定が難しくなることが考えられる。	日常生活利便性を確保する生活圏域としてのまとまりである。その一方で教育・保育施設が充実し、利用者が多い地域（水口・甲南）とそれとは異なる地域（信楽・土山）ができることから、ある程度集約された人口（児童）単位を設定する必要がある。	提供区域③案より、最も人口の多い水口地区をさらに 2 区域に分けている。